

こ さ か
小坂コース

小坂のなりたち 挙母の下町の人々が宝暦6年(1756)の洪水を機に移住が始まり、社寺も同時期に移転した。

距離／約5km 所要時間／約2時間



① 洞泉寺境内にある樹齢100年のしだれ桜
(小坂町3丁目)

なごみの郷、小坂コース最北端に位置する洞泉寺。本尊は阿弥
陀仏、浄土宗の由緒ある寺院です。正和２年（１３１３年）法相
宗の寺として創立、その境内の一角に樹齢１００年程のしだ
れ桜の大きな木があり毎年３月下旬～４月初旬頃に満開になり夜
間ライトアップもされて幻想の世界に、一見の価値有り！



② 小坂の郷の枝下用水測量水準点
(小坂本町2丁目)

明治39年(1906年)枝下用水普通水利組合(枝下用水組合)の測量水準点です。矢作川平戸橋を水源として、現在西三河の農地1598haに広がる地域を灌漑する農業用水の測量水準点で、水の流れを測量した原点だと思います。測量水準点は明治、大正、昭和、平成と約100年間経過して平成20年に明らかにされた平成の大発見です。

※文献によれば、測量水準点は11ヵ所あるはずですが、この1ヵ所だけが発見されました。



③ 松尾芭蕉の句碑がある白鬚神社
(小坂町8丁目)

「郭公、まねくか麦の、むら尾花」小坂町の中央をと通る拳母⇄尾張街道(旧道)を下町から坂を登り切ると神明神社、白鬚神社の二社が見えて来る。

この句は、芭蕉が44歳(1687年)の時、鳴海の宿から渥美半島に旅した時の名句の一つとされています。

※「郭公=かつこう、郭公=ほととぎす、郭公=鳴子鳥なることり」



4 拳母城隅櫓の下にある句碑と拳母神社御旅所
(小坂本町7丁目)

「声かぎり、翼かぎりや、^{あげ ひばり}揚雲雀」拳母藩士松村晩翠の句です。
拳母城内から観た小坂の里は麦畑が広がり波打って雲雀「雀雲」が空高く舞い揚がりさえずっている閑かな風景です。

又そこには拳母祭りの神輿巡行の御旅所があり、句碑の文字と石工の字堀の見事さは絶賛に値します。

※神輿巡行＝拳母神社の御霊が年に一度城までお出掛けの神事



歴史の香る

散歩みち

朝日丘地域
小坂コース



ハイブッドシティ
環境モデル都市 とよた

朝日丘まちづくり委員会

朝日丘地域全体図

拳母城 (七州城)

最初の城は衣金谷城で延慶3年(1310年)足利尊氏の家臣中条影長が衣城を築く。のち慶長9年(1604年)三宅康貞が陣屋(桜城)を構え、一時天領となるが、天和1年(1681年)本多忠利が陣屋を継ぎ「拳母」に改名。寛延2年(1749年)内藤政苗が陣屋に広大な城を築城するが、矢作川の洪水で断念。天明2年(1782年)童子山へ移転し、同5年に本丸城郭整うが、外郭は未完成のまま明治4年(1871年)拳母城廃城となり、公売される。



- | 凡 | 例 |
|--------|------------------------|
| 三軒屋コース | 歴史の香る散策コース (三軒屋・小坂コース) |
| 小坂コース | 歴史の香る散策コース (樹木・金谷コース) |
| 樹木コース | 枝下緑道コース |
| 金谷コース | (下市場・長興寺・下林コース) |
| 下林コース | 陽だまり |
| 下市場コース | |
| 長興寺コース | |

① 陽だまり散歩みち (各自治区コース)

地域の方々が無理なく歩ける身近な散歩道とし、近隣住民が気軽に集い、おしゃべりができるたまり場(陽だまり)をコース途中に設けます。公園や神社など、トイレや休憩施設があるところを陽だまりとしますが、陽だまりによっては、新たにベンチや東屋などを設置します。

② 歴史の香る散策コース

地域の中でも、多くの歴史的・文化的な地域資源がある金谷～樹木地区、小坂～三軒屋地区を巡るコース。樹木の古い町並み、拳母城(七州城)、毘森公園などの見所があります。「三軒屋・小坂コース」と「樹木・金谷コース」の2コースです。

③ 枝下緑道コース

枝下緑道を經由して下市場～長興寺～下林を巡るコースです。桜並木や水辺などの自然、長興寺をはじめとする寺社などの見所があります。

